

# こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blogです

## アーカイブ: 2007年12月

### 2007/12/31

02:36:40, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 578 [●]

#### 詩の歳時記—67



除夜の妻白鳥のごと湯浴みをり 森澄雄

白鳥にうまれ変わることを夢みて  
一心にからだを雪ぎます  
まぼろしの翼がかすかにゆれる  
静かな夜更け たちのぼる温い湯気  
やさしい湯音が絶え間なく流れます

[・編集](#)



### 2007/12/30

14:10:41, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 546 [●]

#### 詩の歳時記—66

## こくりこ日記

高田昭子のb2evolution blog  
[吸殻山383番地の家に戻る。](#)  
[中央1番地に戻る。](#)

- [最新 \(キャッシュ\)](#)
- [最新 \(キャッシュされない\)](#)

<u>2007年12月</u>						
日	月	火	水	木	金	土
2	<u>3</u>	4	5	6		
<u>9</u>	10	<u>11</u>	12	<u>13</u>		
16	<u>17</u>	18	<u>19</u>	20		
<u>23</u>	24	<u>25</u>	26	27		
<u>30</u>	<u>31</u>					
<<	<					

#### ■ [最近のコメント](#)

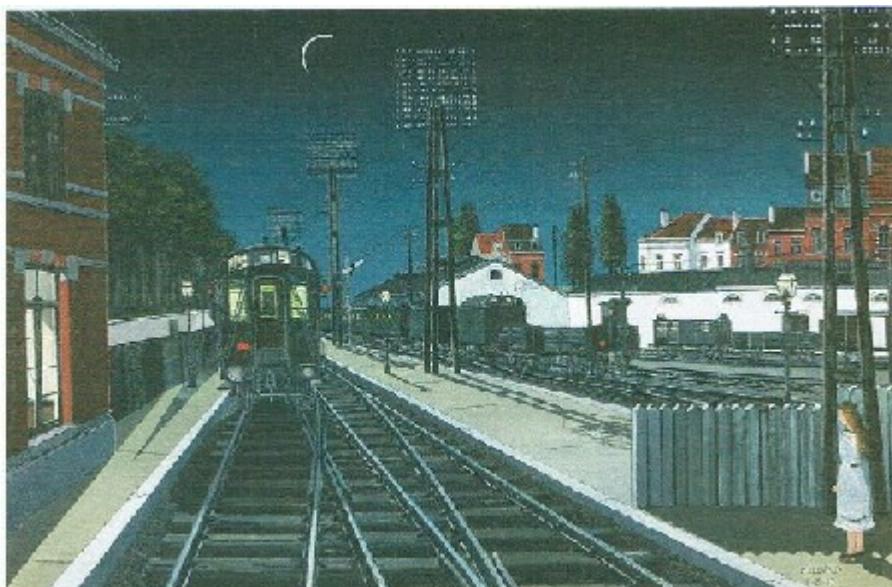
## Heavy Hitters

- [Test \(20 visits\)](#)
- [Walking1日目。 \(20 visits\)](#)
- [詩の歳時記—56 \(20 visits\)](#)
- [引用文—23・あきらめ \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—117 \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—82 \(19 visits\)](#)
- [花守 \(19 visits\)](#)
- [かぼちゃな一日 \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—305 「冬 \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—274 「あ \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—253 「桃 \(19 visits\)](#)
- [詩の歳時記—123 「桜 \(19 visits\)](#)

## 検索

全ての語

いずれかの語



永遠の待合室や冬の雨

高野ツトム

わたくしにゆるされた地上の時間は  
今はどのあたりでしょうか  
夜更けの駅で  
冬の雨に洗われた列車を待ちながら  
ふたたびあなたに逢える日を想ふ

・[編集](#)

## 2007/12/28

□ 14:28:54, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 871 

### 詩の歳時記—65



(Photo by hiroe)

人の世に棲みふくろうの直ぐ眠る

滝沢文枝

○ フレーズ

検索

### カテゴリ

- [All](#)

- [百人百詩 \(100\)](#)
- [詩の歳時記 \(365\)](#)
- [詩日記 \(20\)](#)
- [My Haiku \(49\)](#)
- [Walking \(13\)](#)
- [引用文 \(31\)](#)
- [日記 \(163\)](#)

選択

### アーカイブ

- [2015年11月](#) (1)
- [2015年7月](#) (1)
- [2015年5月](#) (2)
- [2015年3月](#) (3)
- [2015年2月](#) (2)
- [2015年1月](#) (3)
- [2014年12月](#) (2)
- [2014年11月](#) (2)
- [2014年10月](#) (3)
- [2014年9月](#) (2)
- [2014年8月](#) (2)
- [2014年7月](#) (2)
- [続き...](#)

### いろいろ

- [管理](#)

- [プロフィール \(admin\)](#)
- [ログアウト \(admin\)](#)

### このブログの配信

- RSS 0.92: [投稿](#), [コメント](#)

- RSS 1.0: [投稿](#), [コメント](#)

- RSS 2.0: [投稿](#), [コメント](#)

森のドクターの処方箋  
不眠症のふくろうとわたくしは  
やがて眠りにおちました  
妖精たちのささやき  
舞いおちる枯葉の毛布

■ Atom: [投稿](#), [コメント](#)

[What is RSS?](#)

powered by  
**b2evolution**

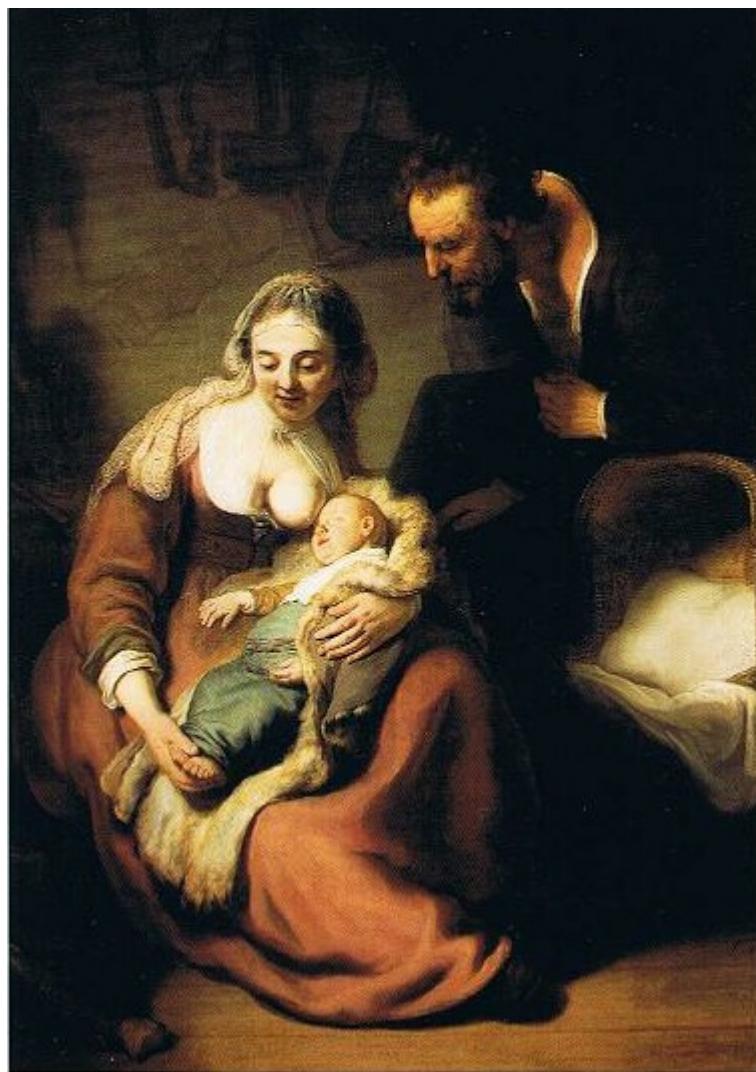
[4 コメント](#) • [編集](#)



## 2007/12/25

□ 20:39:46, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 654

詩の歳時記—64



刻かけて海を来る闇クリスマス

藤田湘子

やわらかな闇をくぐりぬけて  
夜に産まれし吾子よ  
世界は明るんでいましたか  
あなたはふたたび訪れる闇に  
震えながら産声をあげていました。

• [編集](#)



## 2007/12/23

22:02:09, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 678 

### 詩の歳時記—63



(Photo by hiroe)

雪に来て美事な鳥のだまり居る

原 石鼎

雪の重さを載せ  
やませみの重みをさらに載せる  
裸木のやさしい腕よ  
雪色になれない小さな鳥よ  
ひとは言葉をさがしだせない。

• [編集](#)



## 2007/12/21

15:19:57, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 959 

### 詩の歳時記—62



(Photo by hiroe)

ふくろうはふくろうで わたしはわたしで ねむれない 種田山頭火

黄昏とともにようやく飛び始める  
ヘーゲルさんのミネルヴァのふくろうと  
眠れない放浪の乞食俳人は  
わたくしの浅い眠りのなか  
束の間の夢のなかですれちがった。

[2コメント](#) • [編集](#)



## 2007/12/19

□ 17:01:05, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 545

[詩の歳時記一61](#)



冬となる風音夜の子にきかす 古沢太穂

おやすみ  
やわらかな闇は  
寒さからあなたを守ります。  
風の音が聴こえますか。  
いいえ。あれは風の子守歌です。

・編集



## 2007/12/17

□ 18:33:43, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 820 [●]

詩の歳時記—60



(Photo by hiroe)

梟をみにゆき一人帰り来ず 宇多喜代子

五人は森のふくろうに会いに行き  
帰り道では四人になりました。  
誰も気付かない。  
五郎助(ほうほう)  
森はどこまでもひろがってゆく。

[4 コメント](#) • [編集](#)



## 2007/12/15

17:10:17, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 591

詩の歳時記—59



戯曲よむ冬夜の食器浸けしまま 杉田久女

一日は終わったのだろうか  
この日常が戯曲か  
あのひとときが戯曲なのか  
ヒロイン不在のままに  
今日と明日とがひっそりと暗転する

・[編集](#)



## 2007/12/13

□ 11:52:47, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 669

詩の歳時記—58



(Photo by Denden)

岩へ散り紅葉のなほも日を透かす 八木絵馬

山寺への石段にもみじ散りやます  
幻の幼子の紅い掌の痕が  
鮮やかに埋め尽くしている  
死者たちの眠るところまで  
幼子たちのかそけし笑い声に満たされて

• [編集](#)

## 2007/12/11

□ 15:42:36, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 610 

詩の歳時記—57



山影を日暮とおもひ浮寝鳥

鷹羽狩行

眠っているのか  
放心しているのか  
かすかな水紋を描きつつ  
浮寝鳥はうつむいている  
山影にさしかかり 時間は自問する

[・編集](#)

## 2007/12/09

□ 16:46:54, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 666 | ●

詩の歳時記—56



文鎮のかはりの蜜柑大宇宙

磯貝碧蹄館

みかんの皮のなかの十二個のふくろ  
十二個のふくろのなかには無数のふくろ  
したたる水の宇宙はとても重い  
文鎮に化けていても不思議ではないわね。  
わたくしはあぶり出しの文字を書いてみませうか？

[・編集](#)

## 2007/12/07

□ 13:54:59, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 849 | ●

詩の歳時記—55



裸木よ今夜も星星は誤植だ 夏石番矢

世界が一冊の書物であったなら  
わたくしたちのいのちの在りようは  
うつくしい誤植であります  
樹々がすっかり葉を落として夜空が広くなる  
愛する死者の住処はどの星か

[4 コメント](#) • [編集](#)



## 2007/12/05

□ 19:59:23, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 666

[詩の歳時記—54](#)



(Photo by Denden)

たましいのひとつが透けて冬紅葉

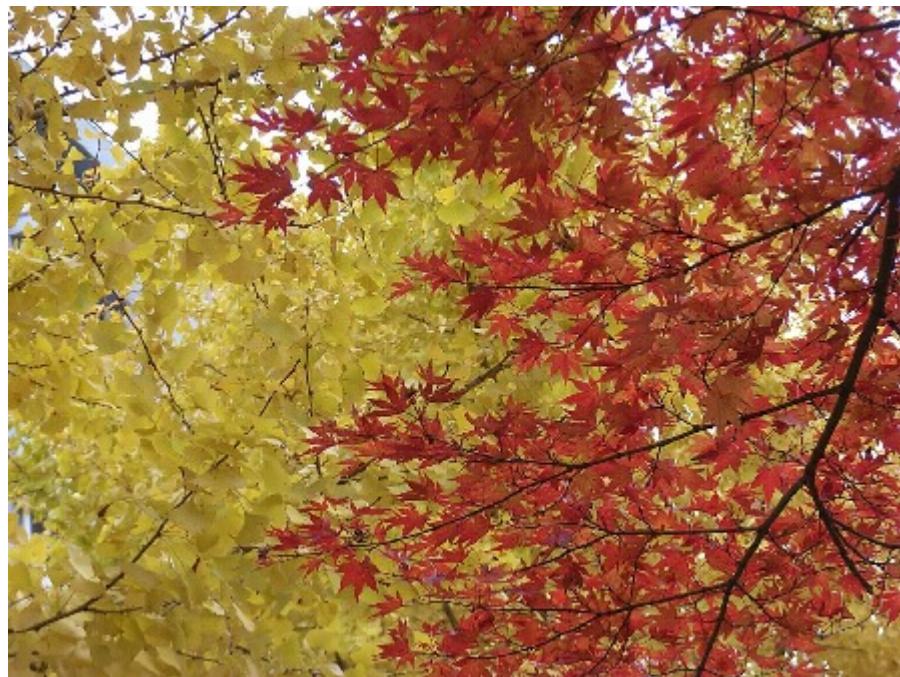
津根元潮

冬の夜の闇のなかで  
わたくしは眼を閉じているはずです。  
その深い暗がりに燃えているもみじは  
夢でしょうか?  
「たましい」と名付けるには戸惑うもの。

[•編集](#)

## 2007/12/03

□ 17:05:01, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 553 |

**詩の歳時記—53**

銀杏散る語ることなしあるような

高田昭子

黄葉の暦のわずかなずれ  
あなたとわたくしの住む町の距離や高度  
時計の長針と短針がかすかに揺れながら  
上と下を指すあたりから  
「おやすみなさい」まで語りあう。

[•編集](#)

## 2007/12/01

□ 17:01:58, カテゴリ: [詩の歳時記](#), views: 597 |

**詩の歳時記—52**



(Photo by KIRI)

山茶花の一とたび凍てて咲きし花

細見綾子

あなたは なぜ  
この凍てる季節を選んだのですか?  
咲いては散り  
咲いても散って  
根方は赤い池となる

• [編集](#)Original template design by [François PLANQUE](#).